

「うさぎひとり」 作 大西 伸子

キャスト表

山中幹子 (37歳) 図書館司書

12歳の幹子 (12歳) 中学一年生

東條舞 (47歳) 「ローズの会」代表

坂上高子 (42歳) 「ローズの会」会員

若槻あかり (25歳) 「ローズの会」会員

中村嶺 (29歳) パティシエ

1 幹子の部屋

幹子のアパートの一室。夜。

壁一面に本棚があり、さらに床にも溢れんばかりの本が置かれている。それ以外は特にインテリアもなく、無機質な空間。

幹子、12歳の幹子がいる。

幹子はベッドに突っ伏している。

12歳の幹子はどこか所在なげな感じでベッドの隅に座っている。

幹子、突然飛び起きて奇声を上げる。

そして、すぐさま突っ伏す。

12歳の幹子（幹子に呼びかけて）ねえ。

幹子、答えない。

12歳の幹子（幹子に呼びかけて）何なの？

幹子、答えない。

12歳の幹子　なんで、私、呼ばれたの？

幹子（突っ伏したまま）だから、フられたの。

12歳の幹子　うん。聞いた。

幹子　失恋したの。

12歳の幹子　うん。だから聞いたってば。

幹子　あなたがしつかりしてくれてたら、私、うまく行ってたのに。

12歳の幹子　何それ。私のせいなの？

幹子（起き上がって）あ、あ、心理学に人生脚本っていうのがあるの。

12歳の幹子　うん。

幹子　幼少期から「お前なんかダメだ」とか言われて育つと、ダメな人間になるんだって。

12歳の幹子　はあ。

幹子　大人になって立派な肩書持ってもダメなの。

12歳の幹子　はあ。

幹子　例えば大学教授とかになってもね、痴漢とかして自分からダメな人間になろうとす

るんだって。

ずっと心のどこかでダメな人間と言われた記憶が残ってるの。

12歳の幹子 うん。

幹子 でもね、過去の自分の記憶を書き換えることができたら今の人生も変わるんだって。

12歳の幹子 う〜〜〜ん。

幹子 だから、私も12歳くらいの頃から記憶を書き換えれば、失恋せずに済んだんじゃないかって。

12歳の幹子 え？ え？ でも、もう失恋したんでしょ？

その事実はどう変わらんないんじゃないの？

幹子 その事実は変わらないんだとしても、中村さんがもう一度私のところに戻ってきてくれる・・・とか。

12歳の幹子 私が変われば？

幹子 そう、12歳の頃の私が変われば。

12歳の幹子 でもさ、12歳の頃に起きたことって変わらないじゃん。中学受験に失敗してぱっとしない生活してる、とかさ。

幹子 だから、ぱっとしない生活してた、っていう記憶も、もしかしたらあの時受験に失敗したからこそ和子とか真由美みたいな良い仲間に出会えた、とかさ、そういう風に記憶を書き換えていくわけよ。

12歳の幹子 う〜〜〜ん。

幹子 だから、あの頃すごく楽しかったから今がある、みたいに思えば今の人生ももっと変わるんじゃないかって。

12歳の幹子 でもさ、どうして12歳なの？ もっと幼少時の記憶とかのほうが良くない？

幹子 いや、そのころ性に目覚めたから。

12歳の幹子 (戸惑って) せ、性って・・・

幹子 なんかね、すごいネガティブな感じなわけ。私の中の「性」に関することが・・・

12歳の幹子 はあ。

幹子 だから、今までろくに男の人とも付き合えなかったし、そういう私のネガティブさが伝わって、多分、中村さんも引いたっていうか・・・

12歳の幹子 そうなの？

幹子 普通、愛してたらセックスしたいって思うじゃない。だからさ、私からそれとなく誘った・・・というか・・・

12歳の幹子 マジか！

幹子 そしたら、逃げられてしまっただけ・・・

12歳の幹子 マジか！ ねえ、私、今何歳なの？

幹子 37歳。

12歳の幹子 37歳！

幹子 う、うん。

12歳の幹子 はあ、もう絶望しかない。

幹子 何だよ。

12歳の幹子 だって、37歳で？ 未だに結婚もしてなくて？ それどころかセックスも断られて？ 何が楽しくて生きてるの？ 私。

幹子 それは・・・いや、大丈夫。時代が変わってるの。今の結婚平均年齢40歳だから。大体定年まで女の人も仕事してるっていうか・・・あ、ほら、男女同権の時代よ。結婚した後も仕事するのが当たり前で、その流れで晩婚化が進んでるっていうか・・・

12歳の幹子 で、今、何やってんの？

幹子 「司書」、図書館の。

12歳の幹子 へえ・・・

幹子 へえって何よ。頑張ったのよ。

12歳の幹子 いや、なんかあんまり意外性がない、というか・・・今でも図書委員だし。というか小学校の時から図書係以外やったことないし。

幹子 頑張って資格取って、そりや、すごいたくさんお給料もらってるわけじゃないけど、なんとか一人で生きていけるぐらいはもらえてるし。

12歳の幹子 うん。

幹子 自立した女性の生き方ができてるんだよ。

12歳の幹子 はあ・・・

幹子 何よ。あんまりうれしそうじゃないのね。

12歳の幹子 だって、私も今、学生生活の大半を図書館で過ごしてるわけ。

幹子 そうだったね。楽しいでしょ。

12歳の幹子 そりや、好きだからいいんだけど・・・でも、この先もずっとそうなんだって、それは知りたくなかった。

幹子 なんだよ。

12歳の幹子 いつか全然違うことが待ち受けてるんじゃないかって。思いもかけない華やかな人生がどこかで始まるんじゃないかって、そんな期待がある(幹子を見て、絶望し)いや、あった。

幹子 たとえば？

12歳の幹子 う〜う〜ん。町を歩いててスカウトされてモデルになるとか、本当のお父さんは別にいてすごい大金持ちだったことが分かる、とか。

幹子 バカじゃないの。そんなねえ、受け身なことじゃ世界は変わらないの。図書委員以外に立候補するとか、文化祭で目立つことする、とか自分からやっていかないと。

12歳の幹子 無茶言わないですよ。分かってるでしょ？

私が学校の中で生きられるのは、「あの人は図書委員キャラ」という確固としたキャラが

あるためだったこと。真面目で国語が得意で、読書感想文はいつもクラス代表に選ばれて
つていうそういうキャラ。

幹子 ああ、そうだった。うん。

12歳の幹子 地味で浮きがちなのを小学校の時何年もかかってキャラを確立したからこ
そ、なんとかクラスの中でもやっていけるわけよ。

幹子 ああ、うん。でもね、大人になるとね、そういうのってどうだったかなあ、とか思う
わけ。

12歳の幹子 え？

幹子 人生長いわけよ。学生時代なんてほんの一瞬だった、てことに気づくわけよ。そして
ら、その時間、ちよつとくらい嫌われても冒険してみたほうが良かったかなって。

12歳の幹子 冒険って何？ 私くらいの時、本当は何がしたかったの？

幹子 それは・・・分からないけど・・・なんかほら、今思えば「図書委員キャラ」にがち
がち自分を閉じ込めすぎちゃったっていうか。

12歳の幹子 はあ？ 私は今、これで必死なんですけど。中学入って半年経って、やつと
これで馴染んできた、というか浮かずにすんでるというか、なんとかグループに入ってる
というか。

幹子 入らなくていいのよ。あんなの。

12歳の幹子 知ってるくせに！ 入らないと生きていけなくなる！

幹子 本さえあれば、何もいらんじやない。

12歳の幹子 じゃあ、別にいいじゃん。中村さん、いなくても。

幹子 それはだめ〜。

12歳の幹子 どうせ、中村さんつてのももつさい男なんですよ。似た者同志の本が好きつ
てだけで内向的でうじうじとした感じの。

幹子 違うわよ。すつごいさわやかな人なの！

12歳の幹子 嘘だあ。

幹子 ほら、写真！

幹子、携帯をいじって12歳の幹子に見せる。

12歳の幹子 え？ 嘘。好みかも。

幹子 でしょ？ しかも年下。まだ二十九歳。

12歳の幹子 何やってる人なの？

幹子 パティシエ。

12歳の幹子 ええ！ いいじゃん、いいじゃん。素敵。

幹子 でしょう？

12歳の幹子 この爽やかなパティシエにガツガツと性的な接触をしてフラれたんだ・・・

うわ、最悪。何してくれてんの。

幹子 ごめん。

12歳の幹子 どうやって付き合えたの？

幹子 それは・・・向こうから・・・

12歳の幹子 ええ？ なんで？

幹子 それは・・・まあ、話すと長いけど。

12歳の幹子 そんなすごいチャンス逃すなんて・・・やっぱり絶望しかない。大人になるの嫌だな。

幹子 ごめん。

12歳の幹子 またとないチャンス逃して・・・そして、一生セックスできない・・・

幹子 そんなことないわよ。

12歳の幹子 え？ だって、そうなんでしょ。

幹子 だから、あなたが頑張ってくれば・・・12歳くらいから女性としての自分を受け入れてもつと色っぽくなるとか。

12歳の幹子 だって、知ってるでしょ？ 私、変態なの。

幹子 うん。

12歳の幹子 エロ小説、この前お母さんに見つかって怒られた。

幹子 そりゃ、お母さんはね。でも今は、普通の女性誌でもそういう特集してるわよ。

12歳の幹子 でも、この前読んだ雑誌では、10人くらいの人に犯されて段々気持ちよくなってきた、みたいな体験談が載ってた。ああいうの読むとやっぱり性欲あるのって変か
なってると思う。

幹子 そ・・・それは、何の雑誌ですか？

12歳の幹子 「ティーンズマガジン」。

幹子 ああ、あれかあ・・・

でもね、そういうのは間違った性知識なの。

12歳の幹子 じゃあ、何が正しいの？

幹子 何って・・・それは、心から愛する人と愛を育んで・・・その愛の結晶として子供が
できて・・・

12歳の幹子 学校の性教育みたい。

幹子 いや、そんな味気ないものじゃなくて・・・もうさ、学校の性教育がおろそかだから、
みんなそういう変な雑誌で変な性の知識が刷り込まれちゃってるわけよ。それは違っ
て・・・ほら、やっぱり愛する人と触れ合いたいっていうのは自然な欲求だったのは分
かるでしょ？

12歳の幹子 分かるけど・・・なんか男子は精子がたまっていくからマスターベーション
するのは自然だけど、女子については何も書かれてないんだよね。で、前に性意識調査の
アンケートとか取られたけど、みんなクスクス笑ってたよ。

幹子 何を？

12歳の幹子 女子でマスターベーションなんておかしい人だって。

幹子 誰が笑ったの？

12歳の幹子 だから、真由美とか和子とか。

幹子 いいよ。ああいうもっさい人たちのことは聞かなくても。

12歳の幹子 貴重なグループの仲間なの。

幹子 ああ・・・大丈夫。そんなこと言ってるの今だけだから。二人とも立派にお母さんになってるから。

12歳の幹子 私はなれてないのに？

幹子 そ、それは・・・

12歳の幹子 やっぱ変態だからだ。10人とセックスする妄想でしか燃えない私は変態なんだ・・・そうして、誰ともセックスできずに人生を終えるんだ・・・

幹子 ちよつとやめなさいよ。大丈夫だから。

12歳の幹子 何がよ。だって未だにエロ本読んで妄想してるだけでしょ。

幹子 官能小説！ 官能小説は立派な文学作品です。

12歳の幹子 だって、そんな妄想しかしてないからまともにセックスできてないんですよ。

幹子 それとこれとは別で、あくまでも小説とかああいう体験談はフィクションだから。

12歳の幹子 嘘だあ。40近くなっても経験ないから知らないだけでしょ。

幹子 そんなことないって。普通にみんな、アダルトビデオや官能小説の世界はファンタジーだって分けて考えてるの。みんなセックスレス時のスパイスとしてそういうものを上手に活用しながら、愛する人と愛のあるセックスをして、子供を作って健全な家庭を作ってるの。

12歳の幹子 う〜ん。

幹子 お願い。私、あなたに普通になつてもらいたい。12歳の時、もうちよつと性的に普通であれば、今、中村さんに避けられることもなかったはず。

12歳の幹子 何よそれ、自分が失恋したのは私のせい？

幹子 まあ、12歳の頃から普通じゃないことばかり考えてたから・・・だから自分に自信がないっていうか・・・

12歳の幹子 自信満々に迫ったらフラれなかった？

幹子 う〜ん。

12歳の幹子 ようするに私にどうなって欲しいのさ。

幹子 ファンタジーも否定しないけど、まともな性欲も持つて、自分は大事にされてもいいんだ、つてもつと自信を持つて、可能性があるんだつて未来を夢見て。

12歳の幹子 (幹子を見て) 見れないよ！

幹子 ……まあ、分かった。いや、あなたが未来を夢見られるようにそこは私がんばる。

せめて、性欲はね。がんばろ？

12歳の幹子 え？ それってがんばるもの？

幹子 性は恥ずかしいことじゃないよ。そう思うだけで変わるの。

12歳の幹子 満員電車で変なおっさんに犯されるとか妄想しても？

幹子 もっと普通のやつ。

12歳の幹子 じゃあ、そういう妄想しかできない私は恥ずかしいじゃん。

幹子 大丈夫、これから、一緒に学んでいけばいいの。

幹子、「セックスできれいになる」などと書かれた女性誌を出す。

幹子 私、今習いに行ってるの。

ちゃんとしたセックスやマスターベーションの方法とか。

12歳の幹子 は？

幹子 ほら、このみんなが読むような雑誌にも載ってる。

「自分自身で女性力を上げる、神秘的な性の力」。そうやって正しい性のあり方を真面目に研究している先生がいるの。

12歳の幹子 え？ え〜？

幹子 ね、明日は一緒に行こう。正しい性知識を12歳の頃から身に付けていこう。

12歳の幹子 でも、今更そんなことしても・・・もう、三十七なんですよ。

幹子 だから何よ。100歳の寿命まで後六十年以上あるのよ。人生これからよ。

12歳の幹子 六十年かあ。想像つかないなあ。

幹子 正しい性の知識を使えば、もつときれいになって中村さんを取り戻せるのよ。

幹子、再び携帯の中村の写真を12歳の幹子に見せる。

12歳の幹子 中村さん！

2 場面はそのまま「ローズの会」へ。

場所は東條舞（47歳）のサロン。大テーブルと数脚のイス。

東條舞、「ローズの会」の会員、坂上高子（40歳）と若槻あかり（26歳）、そして、幹子が舞を中心に席につく。

舞は会員にテキストを配る。

舞 皆さん、今日も「ローズの会」にご参加いただき、ありがとうございます。

では、はじめていきましよう。

前回は、自己価値を高める、そして男性と女性とのかかわり方、その歴史、いかに女性が男性にエネルギーを搾取されてきたか、ということでしたね。

何か質問はありますか？

高子 （手を上げて）はい。

舞 高子さん。

高子 あの・・・質問じゃないんですけど、前回の講座で私、すごく主人・・・あ、パートナーにエネルギーを吸い取られてきたな、ってことに気づいたんですけど、それで、私このままじゃいけないと思って、自分を変えることにしたんです。

なんでも自分でやらなきゃ、て思うのをやめて、ここはこうしてほしい、っていうのを夫にも子供にもしっかり伝えました。そうしたら、パートナーも子供もすごく変わったんです。

自分のことは勿論、気づいたことはなんでもやるようになって・・・みんな誰かの役に立ちたくて生きてるんだな、ていうのを実感しました。

本当に「ローズの会」のおかげです。ありがとうございます。

舞 素晴らしいですね。高子さん。半年ですごくいい変化ですね。あかりさんはどうですか？何か変化などはありましたか？

あかり （ぼさぼさの髪をかきあげて）私は・・・別に・・・夫とか彼氏とかいないし・・・（動ぜず）そうですか。ゆつくりやっていきましようね。幹子さんはどうですか？

幹子 あ・・・私は・・・えっと、職場ですごくほめられました。館長に「君は図書館司書の鏡だ」と言われました。

舞 素晴らしい。自分で自分を肯定できれば、周囲の人からも認められますね。

パートナーの方とはいかがですか？

幹子 パートナー？

舞 お付き合いされてる方がいらっしゃるんでしょう？

幹子 あ、ああ、ああ、ああ・・・勿論うまくいってます。それはもう。そうですか。それは良かったです。

では、テキストを開いてください。今日のテーマは「ポルノに歪められた現代の性」です。

「性」は異性、もしくは同性が愛し合う素晴らしいものであるはずですが、現代ではアダルトビデオ、ポルノ雑誌等で歪められた状態で伝わっています。

いつの間にか「性」は「恥ずかしいこと」「隠すべきこと」「わいせつな行為」として、刷り込まれるようになってきました。

よくセックスのことを「Hする」という表現をしますが、この「H」は何の略か分かりますか？

「H」は「HENTAI」（ホワイトボードに文字を書きながら）つまり、「変態」の略で

す。

皆さんは愛する人と「変態」をするのでしょうか？ そのような行為から生まれてきたのでしょうか？

違いますよね。

セックスは真に愛し合う男女、もしくは同性同士が心から求め合う美しい行為です。

ところが、いたずらに劣情を刺激するポルノからしか情報を与えられていない現代では、セックスは卑しく隠すべきもの、としか教えられてきませんでした。

その結果、性犯罪の多発、セックスストレスの増加、自分自身を肯定できない人が増えました。

高子（深く頷いて）分かります。私も親から性的なことは全て「汚らわしいこと」と遠ざけられていました。性欲のある自分を肯定できずに長い間、自分を否定して育ってきました。

私のような人はきつと多くいるはず、だから、そういう人にこの素晴らしい学びを私も先生のように伝えていきたいと思っています。

舞 ありがとうございます。

この中で家でテレビをつけっぱなしにしてる方はいらっしゃいますか？

あかり 私、そうですけど・・・

舞 1分間の映像は180万語以上の言葉を使って話すより効果が高く、文章の6倍の効果があると言われています。

たいして興味深く見ていなくても、だらだらと流れているだけで。

これが暴力的な性行の場面だったらどうでしょうか？

男性が皆、暴力的なアダルトビデオをお手本にしていたとしたら？

男性はただひたすら射精に突き進むだけの暴力的なセックスしかせずに疲労感が増していくだけ、女性は嫌とも言えず、それにこたえるふりをするだけのそんな一方的な関係が続いたとしたら？

セックスストレスは増加する一方です。

最近では、そういった暴力的な映像を受け入れられず、セックス自体を拒否する男性も増えてきました。

あんなことをしたくないから、女性とセックスしたくない。

それはとても正しい反応だと私は思います。

本来持っている繊細な感受性がアダルトビデオの暴力を受け入れられないのです。

高子 でも、主人は時々見てるみたいで・・・何とかならないでしょうか・・・

舞 押し付けて禁止するのはいけません。それよりも、高子さんが正しい知識を学んで高子

さん自身が変わることが大切です。

高子 ありがとうございます。

あかり でも、そういう映像がダメなんだとしたらどうやってセックスを学べばいいんですか？

舞 正しい知識を持っている人が伝えていくしかありません。

今回の宿題は日常的についてるテレビを消して自分の内面と対話することです。

自分が本当に何を望んでいるか、何をしたいのか、ゆつくりとイメージしてみてくださいね。

では、今日の講座は終わります。また、来月にお会いしましょう。

幹子、12歳の幹子を残して舞、高子、あかりは退場。

場面は幹子の部屋になる。

3 幹子の部屋

幹子、12歳の幹子。

12歳の幹子 すごかった〜。何ていうか価値観が変わる？っていうの？ 私、本当に今聞いておいて良かった。

幹子・・・うん。

12歳の幹子 学校でもみんな教えるべきだよ。性教育はああいう風にあるべきだって。

幹子 はあ。

12歳の幹子 私たちは変なメディアに激しく影響されて、本当のことを見失ってるんだね。特に「H」するの「H」は変態の「H」だってところ？

ぐっと来たなあ。もう、「Hする」とか言えないなあ。

幹子 そうね。

12歳の幹子 何よ。なんか反応悪いなあ。あなたが望んだように「12歳の幹子」が変わろうとしてるんだよ。

幹子 まあ、そうなんだけど・・・

12歳の幹子 セックスは卑しく隠すべきものじゃない、もっと堂々としてればいいんだ。

幹子 うん。

12歳の幹子 マスターベーションだって恥ずかしいことじゃない。

幹子 だから、それは最初に私が言ったじゃない。

12歳の幹子 そうだよ。だから、そういう風を考え方が変わったんだって。ね、良かったね。

幹子 そう・・・そうなんだよね。

12歳の幹子 え？ 何？ 何が不満なの？

幹子 いや、私も最初はあるみたいなの反応だったわけよ。すごい！ これはすごい、人生が変わるって。

12歳の幹子 うん

幹子 でも、なんか今でも官能小説は好きだし、暴力的なアダルトビデオも、マスターベーションするときはまあまあ見てたりするんだよね。

12歳の幹子 え？ なんで？

幹子 だって。

12歳の幹子 だって教わってたじゃない。そういう暴力的なやり方は間違ってるって、自然に沿った美しい性欲を持ちましょうって。

幹子 いや、そうだよ、そうなんだけどさ、でもさ。

12歳の幹子 なにさ。

幹子 自然に沿った美しい性欲、とか思うと性欲がわからないというか・・・

12歳の幹子 は？ 何言っちゃってんの？

幹子 多少、「いけないこと」みたいな部分があったほうがドキドキするというか・・・

12歳の幹子 ごちゃごちゃ言ってるんでさ、早く正しい普通の性欲でマスターベーションしてみよう。

幹子 う〜うん。

12歳の幹子 中村さんだって、そういう普通の性欲を持った女性が好きなはずでしょ？

幹子 中村さん・・・

12歳の幹子 ね、中村さんに迫って変態を見抜かれてフラれたんでしょ？

幹子 う、うん・・・

12歳の幹子 自然に沿った美しい性欲を持てば、きつとよりを戻せるって。そう思って私を呼んだんでしょ？

幹子 う、うん・・・

12歳の幹子 そうよ。自分の変態じゃない、正々堂々とした性欲で燃えるんだ、って自信がつけば、きつと中村さん戻ってくるって。

幹子 そうだ・・・自信をつけたかったんだ、私。

12歳の幹子 そうよ。もう、誰にも恥じることがないのよ。満員電車でおっさんにいられて興奮する自分は卒業して、ちゃんと愛する人とのセックスの想像で興奮できるのよ。幹子 そうよね。12歳の自分がそうなったんだものね。

今の私だって、変わったはず。

誰にも恥ずかしくない堂々とした性欲でマスターベーションしてみよう。

場面は「ローズの会」へ。舞によるマスターベーションの講座。

高子、あかりは真剣にノートを取っている。

幹子は舞の話を聞きながら実践しようとしている。

舞 女性であるあなた自身はとても繊細でデリケートな存在です。

そんな自分の体に触れるときはとても大切に扱わなければなりません。薔薇の花びらに触れるときのように、壊れないようにゆつくりと、ていねいに。

まず、腕に触れてみましょう。

手のひら全体であたたかくゆつくりと優しく。

手のぬくもりを感じますか？

生命の温かさを感じたらその手をゆつくりとなでおろしていきます。

決して焦ってはいけません。

ゆつくりと優しく。

あなたはとても愛おしく大切にされる存在です。

慣れてきたら首筋にも触れていきましょう。

繊細な神経がたくさんある場所です

優しく何度も接吻されているところを思い浮かべて。

そう。あなたはもつともつと大切に扱われていいのです。

ゆつくりと、その手を乳房に持っていてください。

そつとなでるように。

自分の胸のふくらみを愛おしむように温めていきます。

女性である自分を誇らしく感じますか？

自分を今までで一番美しいと感じますか？

あなたがていねいに、とてもていねいに作られた存在だということを実感できますか？

自分の性器は一度じっくりと鏡を見て眺めてみるといいですね。

マリア様の像のような形が見えてきます。

ここは本当に神聖な場所。

美しくも神々しい、拝みたくなるような・・・

女性は誰でもそんな場所を持っているのです。

自分自身を尊敬し、大事にせざるを得なくなりますね。

勿論、ここに触れるときはていねいに・・・

あかり (ふいに立ち上がって) 嘘です。そんなこと。

全員、一斉にあかりのほうを見る。

あかり お母さんが言っていました。汚い汚い場所だって。だから、しっかりと洗わなきゃい

けないって。

近所のトンネルにも女性器が大きく落書きされました。

汚らしい場所を持つてるから、女は卑しいんだってそんな風に描かれてました。毎日、毎日、小学校に行く時はそのトンネルを通らなければならぬんです。

そうやってずっと洗脳されてきたんです。

女のそこがいかに卑しいか、だから女は汚らしいんだって。

だから、もっとみじめに扱っていいんだって。

そうしたほうが女はもっと喜ぶから。

誰も、女を・・・私を大事にする人なんていなかった。

だから、できません。

私は自分を大事にすることはできません。誰にも大事にされたことがないから。

場面は幹子の部屋へ。

幹子、12歳の幹子。

幹子、実は比較的早い段階で動きが止まっている。

12歳の幹子 どうしたの？

幹子 え？

12歳の幹子 止まっているけど。

幹子 うん・・・なんか思い出しちゃって。

12歳の幹子 え？

幹子 あかりさんっていたでしょ？

12歳の幹子 ああ、うん。

幹子 あの人が男性に大事にされたことないから、自分を大事にできないって。

12歳の幹子 変な人とばかりつきあってきたの？

幹子 それもあるかもしれないけど、社会の空気とか？ 変な雑誌に書かれてるような女

性に対する扱い方、とか。

12歳の幹子 だから？

幹子 女性をそうやってぞんざいに扱ってもいいんだって空気は社会全体にある。

それなのに・・・

12歳の幹子 何？

幹子 私は、男性が女性を貶める目的で作られたもので興奮してる・・・

12歳の幹子 だから、変わるんでしょ！ もう違うんでしょ！ 正しい性を学んでるんでしょ！

幹子 そうよ、そうなの。でもね、どうしてもなんか性的に興奮しようとする、自然とまだそういう映像が頭に浮かぶのよ。

12歳の幹子 もう大丈夫だって。普通になるために私を呼んだんでしょ。
幹子 そう・・・そうだった。

でも、ダメだ。なんかもう興奮できない。

12歳の幹子 ええ！

幹子 今日はもういい。無理。冷めちゃった。

12歳の幹子 そんなあ・・・じゃあさ、中村さんでやってみれば？

幹子 ええ！

12歳の幹子 あの爽やかな中村さんが、ほら、今日の前に立っていて・・・優しく抱きしめてくれるの・・・それから・・・

幹子 それから・・・

12歳の幹子 優しくキスしてくれて・・・

ベッドの上に押し倒されて・・・

わあ！ ロマンティック！

しばらく間。

幹子・・・ダメ。これ以上、無理。中村さん相手に私、そんなひどいことできない。

12歳の幹子 え？ 何？ 何しようとしているの？

幹子 やっぱり今日はいいや。

(立ち上がって)明日の準備してさっさと寝る。あなたひとりで頑張る。

12歳の幹子 ええ！

幹子、カバンを取り出して、翌日の準備をしようとする。ふと、カバンの中にあった冊子を見て。

幹子 ね、これ見て。(「図書館マニュアル」と書かれた冊子を取り出しながら)

12歳の幹子 何？

幹子 私、図書館職員の服装規定の写真モデルに選ばれたの。選ばれてから十年以上経っているけど、モデルは私のまま。

12歳の幹子 「黒、グレーなど目立たない色のカーディガンを着用。化粧は薄目に」へえ・・・校則みたい。

そういえば、生活指導のヤジママにもこの前、「君は校則の見本みたいだね」って言われた。あんまりうれしくなかったけど。

幹子 覚えてる。中学の・・・うん、もつと前からそうよね。とにかく真面目に、集団に受け入れてもらうためにルールを外さずにとって頑張ってると思わない？

12歳の幹子 うん。先生に目をつけられたら学校では生きていけないしね。

幹子 その後の人生もずっとそう。

それで、図書館司書の仕事にも就けたし、清く正しく誰にも後ろ指を指されないような生活をしてる、と思う。

12歳の幹子 うん。

幹子 でも・・・なんでかなあ？ 七十パーセントの人が二十二歳までに処女じゃなくなるの。

12歳の幹子 それは、まあ・・・そんな感じだろうね。

幹子 そう・・・なんだよね。三十歳以上で処女でなくなる人はほぼゼロ。もう、三十を越すと一生処女の可能性が高いわけ。

12歳の幹子 ええ！

幹子 どうして？ どうして外れないようにがんばってきたのに、いつの間にかこんなことになってるの？ みんなに認められなくて、ううん、せめて、社会の一員として受け入れてもらいたくて、変な風に目立たないようにして頑張ってきたのに。

12歳の幹子 私だつて今、一生懸命頑張ってるよ。頑張つて図書館真面目キャラ作つて、頑張つて友達作つてグループにも入つて。その努力の成果がこれなの？ 男の人と付き合えず、セックスできないってこと？ 結婚できないってこと？

幹子 さつき言つてたヤジヌマ・・・それにめちゃくちゃ目をつけられてる佳代先輩っていうでしょ？

12歳の幹子 ああ・・・あの学校創立以来の最悪不良女子と言われている・・・

幹子 そう、数年後にあの二人結婚するよ。

12歳の幹子 え？ ええ？

幹子 だからさ、ヤジヌマに毎日ほめられて認められてきたのは私でも、実際に結婚するのは一番ルールから外れてる佳代さん・・・

12歳の幹子 うううん。別にヤジヌマと結婚したいわけじゃないけど・・・なんか納得いかない。

幹子 だからさ、あなたにももつと好きに生きてほしい。集団から外れまい、とするんじゃないくてき。

12歳の幹子 うううん。それできてない人に言われても・・・

幹子 そうだよね。・・・よし、中村さんに連絡してみる。

12歳の幹子 ええ！

幹子 明日、会えませんか。そしたら、ちゃんと言う。自分の気持ち。あなたのことが好きだから、もつと深く知りたいんだって。

12歳の幹子 また、逃げられるかもよ。

幹子 この前は変な迫り方をしたから。ちゃんと真摯に話したら、きつと分かってくれる。

12歳の幹子 そうかなあ。

幹子 まあ、見てて。今の私が変われば、12歳のあなたも変わるから。

12歳の幹子 うん・・・って、ええ？ 逆だったんじゃないの？

幹子 私は、逃げずに中村さんと向き合う。失敗してもいい。嫌われてもいい。これが今、自分の気持ちに素直でいられることだから。

さあ、やっぱりそのためにも練習しないとね。

12歳の幹子 練習？

幹子 私、やってみる。あなたが言ったとおり、中村さんでマスターベーションしてみる。

4 図書館のカフェ

幹子、中村、向かい合って座っている。

中村 先日は何かすみません。なんていうか、こうびつくりしちゃって。

幹子 あ、いえいえ。私の方こそ・・・大変無礼な態度を・・・

中村 いや、その・・・どう言ってもいいか分からなくて連絡もできなくて。

幹子 あ、いえいえ、そんな。悪いのは私のほうですから。

中村 そんな・・・その・・・

しばらく沈黙。

幹子 あの、私、やっぱりその・・・中村さんのこと・・・そのもつと深く知りたい、と思つてその・・・

中村 いや、分かります。おっしゃりたいことは。僕の方こそ、その・・・きちんとお付き合い合いたい、などと言いながら・・・なんとなくそういつたことはなあなあにしてしまつて・・・

幹子 あ、いえ・・・

中村 なんというかこう・・・幹子さんと美術館に行つて、感想を言い合つて・・・そういうことが、そういう時間が続くだけで良かったとか・・・

幹子 そう、そうですね。私もそれだけで良かったのに、なんか焦つてしまつて・・・

中村 いや、幹子さんの気持ちをないがしろにしました。多分、僕は幹子さんならそういうことも許してくれる、と勝手に甘えてました。

幹子 あ、いえ・・・

中村 お付き合いさせていたきたい、と言つたのは自分のほうだったのに・・・

幹子 い、いえ。

しばらく沈黙。

中村 なんとというか・・・正直言うとすごく苦手で。

幹子 え？

中村 自信がないというか・・・

幹子 あ、はあ・・・

中村 女性とつきあったこともあるんですけど・・・その・・・接触的なことに自信がなくて・・・それでうまくいなくなってる・・・

幹子 そ、それはもしかして、思春期に暴力的なアダルトビデオを見てしまったから、セックスに対する嫌悪感が芽生えた・・・とかそういう感じですか？

中村 ああ、まあ、そういうこともあったかもしれないませんが・・・

幹子 それ、この前勉強したばかりなんです。

中村 え？ 勉強？

幹子 そうなんです。私、性に関する勉強してるんです。現代では、セックスに嫌悪感を持つ男性が増えてるって言うてました。

中村 さんもそうだったんですね。

中村 あ、はあ、いえ、そういう感じな・・・

幹子 (遮って)現代の性教育は肝心なところをうやむやにしてるんです。だから、そういうアダルトビデオで学ぶしかないんですけど、そうしたら、そうやって男性が暴力的に女性を扱うような演出ばかりしていて・・・つまり、間違ってるんです。

中村 はあ・・・

幹子 間違った性の知識にみんな洗脳されてるんです。

だから、私、正しい「性」とは何か、勉強してるんです。

中村 さんも一緒に勉強しましょう。

中村 はあ。

幹子 「ローズの会」っていうところがあるんです。そこで、正しい性とは何か、現代社会にいかに関違った性知識が蔓延してるか、そういうことを学んでるんです。

中村 あ、はい。

幹子 正しい性を学んで私もすごく自分に自信が持てるようになったんです。大丈夫です。一緒に頑張りましょう。

中村 え、あ、はい。

幹子 安心してください。私だって色々あったんですよ。もうこの年齢ですし。

中村 あ、ああ・・・そうですね。

幹子 だから、大丈夫です。一緒にがんばりましょう。

「ローズの会」に行きましょう。

5 「ローズの会」の飲み会

さっぱりとしたベジタリアンのお店。

幹子、舞、あかり。

講座の後の飲み会から1時間くらい経った様子。

向こう側のテーブルでは「性のお話会」の男性コースに参加した男性たちが数人で話しているが、登場しない。

舞は超然としているがあかりはかなり酔いが回っている様子。

幹子はアルコールが飲めないので、オレンジジュースを飲んでいる。

幹子の隣に中村が所在なげに座っている。

舞 中村さん、本日は「性のお話会 男性バージョン」にお越しくださりありがとうございます。
ました。

中村 あ、はい。

舞 いかがでしたか？

中村 そうですね・・・色々とびっくりすることが・・・男性同士でマッサージするのは・・・
舞 ええ。最初は皆さん戸惑っておられましたけど、とてもお上手でしたよ。

中村 はあ。でも、なんとか相手の方に対する敬意とか生命の尊厳、みたいなものを感じました。

舞 その通りですね。互いを尊重し合う気持ちが大切です。

中村 わずかな時間でしたが、素晴らしい体験でした。

舞 分かります。

他に印象的なことはありませんか？

中村 やはり、射精を目的にしない交わりを目指す、というところでしょうか。

射精しないと女性からものがっかりされる、と思ってたので。

舞 そうなんです。勘違いしてる男性が多いんですよ。

勿論、女性もですけど。ただ、ひたすら射精することだけを目的にする性行はお互い疲れ
るだけ。エネルギーを奪い合うだけ。

その時、男性が集まったテーブルで飲食していた高子が来る。
かなりテンションが高い。

高子 中村さん、あちらの男性が中村さんと話したいって。

行っつきなさいよ。

中村 え、はい。

中村、一旦退場。

高子（あかりと幹子に）ちよつと、せつかく今日は男性がたくさんいらつしやってるんだから、あつちに行つて来たら？

あかり　なんかエネルギーとかスピリチュアルとか高尚な話ばかりしてて、私のこと見えないみたいだし。

高子　そんなことないわよう（笑つて）パートナーを探してらつしやるんでしょう？　チャンスじゃない。ね、幹子さんも。

幹子　あ、私は・・・

高子　ああそうですね。中村さんがいらつしやるものね。そうそう、先日の幹子さんのレポート、感動しました。「マスターベーションとその後」

幹子　え、あ、はあ。

高子　いかにマスターベーションによつて自分に自信を取り戻したか、女性性を高められたか、その過程・・・

私、読んで泣きそうになりました。

舞　あのレポートは本当に素晴らしかったですね。

高子　私なんか結局忙しくて全然取り組めてないし。ベッドに入ったらもうすぐに寝ちゃう。本当に劣等生だわ。

舞　ご自身のペースで大丈夫ですよ。

高子　はい。それにしても、驚きました。幹子さんがお付き合いされてる方を連れて来られるなんて。

幹子　え、ええ。まあ。

あかり　嫌だとか言われなかったんですか？

幹子　い、いえ・・・ちよつと私が強引だったかもしれませんが。

あかり　どうやって誘つたんですか？

幹子　え、えつとそれは、私がここに来てることを正直に話して・・・

あかり　へえ。

高子　お二人の出会いはどうな感じなの？

幹子　あ、それは、私が図書館で働いてて、彼は毎週決まった曜日に本を借りに来てて顔見知りではあったんですけど・・・そしたら休みの日に偶然美術館で会つて・・・

高子　文学的ねえ。

あかり　ふうん。随分、高尚な感じなのね。

高子　いいなあ。一生懸命学んでくれる方がパートナーで。私なんて理解のない旦那と結婚しちゃつたから大変よ。

舞　前にもお話ししましたが、自分が変わることで周りの人が変わっていくんですよ。

そうですね。幹子さん。
幹子 はい、はい。

中村が戻ってくる。

中村 あの、そろそろ・・・明日も早いんで。

幹子 あ、そうですね。私もそろそろ。

舞 ええ、今日はお会いできて本当に良かったです。

高子 向こうではどんなお話を？

中村 やっぱり、男性は・・・その・・・みんなそういうポルノ的なものに毒されていたんだな・・・というようなことを。

舞 そうですね。

中村 それでかなり間違えていて・・・

高子 でも、気づけて良かったじゃないですか。ね、幹子さん。

幹子 え、ええ。

あかり でも、アダルトビデオだってそんな悪いことばかりじゃないと思うんですよ。野菜ばかりの料理をいつも食べてるのもどうかと思うし。そういう脂肪分たっぷりの料理？みたいなのもあっていいんじゃないかしら。

中村 はあ。

あかり 私は別に好きじゃないけど、表現のひとつとしてはありじゃないかって思う。どう受け取るかはその人次第でしょう？ もう大人なんだから。

中村 それはそうなんですけど・・・そのまだ判断つかない頃に見て・・・ちよつとトラウマみたいになっちゃったこともあって。

舞 ええ。そういう方は多いんですよ。それで、女性と交わることができなくなってしまう男性が近年増加しています。

高子 ねえ、やっぱり幹子さんと中村さんは、ゆつたりとした美しい性を心がけていらつしやるのかしら。

幹子 え、そ、それは・・・

高子 そうですよ。次回の性の実践編、今度のレポートも期待してますよ。

幹子 あ、はあ・・・

中村 レポートもあるんですか？

舞 はい。受講生の皆さんには毎回課題に取り組んだ成果をレポートに書いてもらっています。

中村 へえ、幹子さんのレポート、読んでみたいですわね。

舞 是非。素晴らしいレポートは私のホームページに掲載させていただいてるんです。仮名ですが、幹子さんのレポートもありますよ。

高子 幹子さんのレポートは毎回載ってるんですよ。特に、前回の「マスターベーションとその後」。今までの中で一番素晴らしかったわ。

幹子 あ、あの、ちよつとそれは。

中村 へえ！

舞 幹子さん、理解あるパートナーとお付き合いなさって素晴らしいわ。

本当にお二人は「ローズの会」にふさわしい理想の恋人たちですね。美しい性を実践するお二人に拍手しましょう。

舞、高子拍手する。

いつの間にか、12歳の幹子も出てきて拍手している。

あかりはしらけてワインを飲んでいる。

6 幹子の部屋

幹子、12歳の幹子。

二人、ベッドの上にいる。

シャワーの音がする。

12歳の幹子 どうしたの？

幹子 あ、あのね、あのね・・・

12歳の幹子 誰かいるみたいだけど・・・

幹子 う、うん。

12歳の幹子 中村さん？

幹子 うん。まあ、そう。

12歳の幹子 え？ もしかして、そういうことに？ おめでどう！

幹子 あ、そうなんだけど・・・

12歳の幹子 何よ。良かったじゃない。四十でやつとか！ 長かった！

幹子 三十七！ そうじゃなくて・・・

12歳の幹子 長い冬を経て、ようやく愛する人と結ばれたのね。ロマンティック・・・

幹子 う、うん・・・

12歳の幹子 何よ、何か変。良くなかったの？

幹子 いや、そういう・・・

12歳の幹子 感じなかったの？ 不感症？

幹子 あ、そういう・・・

12歳の幹子 大丈夫。最初はみんなそんなもんなのよ。回数を重ねるごとに女の喜びを知

るって、書いてあったわよ。

幹子 何に？

12歳の幹子 「ティーンズ・マガジン」

幹子 あんた、まだそんなもん読んでるの？

12歳の幹子 え？ だって・・・

幹子 あれは間違った知識だって言ったじゃん。

12歳の幹子 そうだけど・・・

幹子 ああ、もうあんたがそんなんだから・・・

12歳の幹子 何よ。

幹子 つい、ああいうのを真似しちゃった。

12歳の幹子 え？

幹子 なんかすごい感じてるふりとかしちやって・・・

12歳の幹子 全然気持ちよくなかったの？

幹子 「経絡で愛する男女」っていう本があるの。

12歳の幹子 はあ。

幹子 気の流れにそって相手の体をマッサージしていくっていうやつんだけど、最初は腕で次は背中、何回なぞって・・・というのが決まってるのね。

12歳の幹子 前戯的なもの？

幹子 マッサージ！ それで、舞先生のお薦めの本だし、講座前に参考になるかと思って中村さんにも貸したわけよ。

12歳の幹子 うん。

幹子 お腹が時計回りって難しいのね。人相手だとどっちだっけ？てなるわけ。

12歳の幹子 どっちだっけ？ ってなったんだ。

幹子 うん。

12歳の幹子 それ、挿入まで書いてあるの？

幹子 いや、そこまでは・・・でも、多分なんかの本を参考にしてると思う。

12歳の幹子 なんで分かるの？

幹子 ぶつぶつ回数とか数えてたし。

12歳の幹子 あ、そう。

幹子 それで・・・なんていうか・・・あんまりときめかなかったっていうか・・・

12歳の幹子 そりゃ、冷めるよね。

幹子 うん。でも、申し訳ない気もして。

12歳の幹子 それで、なんかそういうふりしちやったの？

幹子 うん。

12歳の幹子 で、でも、ふりをしているうちに感じてくる、とかもあるみたいよ。そういう人の体験談も載ってた。

幹子 そう・・・かなあ・・・なんか、疲れちゃった。

12歳の幹子 ええ！ それはさあ、ちゃんと話し合った方がいいんじゃない？

幹子 話し合うって、マニュアル通りにするのやめてもらえませんか？ て言うの？

12歳の幹子 そうじゃなくて、そういうものに囚われず、もっと素直に自分の気持ちで動いた方がいい、みたいな提案？ をすればいいんじゃない？

幹子 う、うーん。だって、男の人ってすごいデリケートなんじゃないの？ 自分のやり方を貶された！みたいになつたらすごい傷つくって何かで読んだ。

12歳の幹子 だから、柔らかくオブラートに包んで伝えるのよ。このままセックスレスになつてもいいの？

幹子 それは嫌だ。

12歳の幹子 自分に素直に生きるって言ったじゃない。

私が未来に希望を持てる生き方をするって言ったじゃない。ほら、がんばって。

12歳の幹子、幹子の背中を押して退場。中村、さっぱりとした感じで登場。

中村 すみません。泊まつていければいいんですけど・・・明日、早くて。

幹子 ああ、そんな、大丈夫です。

中村 じゃあ、今日はこれで・・・

幹子・中村 あの、

中村 あ、どうぞ、

幹子 いやあの、どうぞ、

中村 あの・・・今日は素晴らしかったです。

幹子 え？

中村 ほら、幹子さん、レポートに書いてらっしゃったじゃないですか。「マスターベーションとその後」

幹子 あ・・・(恥ずかしくなる)

中村 「自分が自分じゃなくなる高揚感と一体感。まるで宇宙と交感しているような聖なる高み」そういったところに自分が連れていかれたような、あの一体感が自分にも起こった

ような気がします。

幹子 ええ！

中村 え？ 幹子さんは違つたんですか？

幹子 いえいえいえいえ。

中村 自分のような稚拙なリードでも、あそこまで反応してもらえたなんて・・・本当にうれしかったです。ありがとうございます。

幹子 あ、それは・・・それは、良かったです。

中村 やっぱり、意識の高い者同志が・・・いや、自分なんてまだまだだけど、魅かれあう

とより深い交わりを目指していけるんですね。

幹子 はあ。

中村 本当にありがとうございます。

幹子 あ、良かったです。私も。

中村 僕、本当にずっと自信がなかったんです。

幹子 え？

中村 十年前に付き合った女性がすごくおとなしい方で、なんというかほとんど反応もなくて・・・彼女がそんなにこういうことが好きじゃないのかなって思って・・・でも、違った。

幹子 はあ。

中村 いつの間にか浮気してて、その彼とはすごく楽しんでるって言われて・・・

幹子 それはひどい。

中村 すみません。こんな話、聞きたくないですよ。

幹子 いえいえ。なんでもお話いただけで良かったです。

中村 だから、今日は本当に自信が持てました。ありがとうございます。

幹子 良かった。

中村 では。

幹子 はい。気を付けて。

中村、支度をする。

幹子、意を決して。

幹子 (帰ろうとする中村に)あ・・・

中村 え？

幹子 もうちよつと、中村さんの好きなようにしてもいいんじゃないかなって。

中村 え？

幹子 あ、いや、本とかも大事だと思うんですけど、自分の欲求？ みたいなものにもつと

素直になつてもいいんじゃないかなって。

中村 ええつと・・・それは、どういう意味ですか？

幹子 えつと・・・ほら、なんか中村さんが性的に興奮するポイントとか、そういうのにも

つと忠実になる・・・というか。

中村 はあ・・・

幹子 勿論、基本は大事です。でも、こういうのはほら、人それぞれ、みたいなのところがあるし。

中村 あの・・・やっぱり良くなかったんですか？

幹子 あ、いえ・・・そういうことではなくて・・・

中村 やっぱり、僕はほとんど女性経験もないし・・・幹子さんのような方を満足させるには・・・

幹子 だから、そういうこではなく・・・ほら、どうしたら気持ちがいいとか・・・それは、ひとりひとりが違って、本だけではどうしようもない・・・

中村 すみません。

幹子 あ、いえ、別に謝ることじゃないんです。

中村 満足できなかったんですよね。

幹子 いえ、とても満足ですよ。でも、これからもっと高みを目指すに置いて・・・

中村 はあ。

幹子 話し合っていきましょう。

中村 はい。

幹子 どういうことがしたい、とかありますか？

中村 自分は別に・・・今日のような普通の交わりができれば。

幹子 そうですか。じゃあ、どの辺が感じる、とか、気持ちいいとか。

中村 それは、だって・・・講座のテキストに細かく書いてあるんじゃないですか。男性の体なんてたいして違いはありませんよ。

幹子 そう・・・ですね。

中村 それに・・・そういう肉体的なことってどうでもいいです。

幹子 え？

中村 ひとりでするほうが気持ちいいに決まってるじゃありませんか。

幹子 ええ！

中村 あ、女性は違うと思いますよ。でも、男は「相手に気持ちよくなってもらわなきゃ」

とか「リードしなきゃ」とか色々考えるし、やっぱり相手がいると大変なことのほうが多いと思います。

幹子 そんな・・・私は、中村さんもいいほうが絶対にいいです。

中村 そんなことより、もっと精神的な結びつきみたいなのほうが大切なんじゃない

でしょうか。

幹子 でも・・・

中村 僕のことには気にしないでください。

幹子 そういうわけには・・・

中村 だって、今日、とても良かったんでしょ？

幹子 え？ だって、中村さんが良かったって。

中村 それは、幹子さんが喜んでくれたから。

幹子 ああ・・・

中村 嘘だったんですか？

幹子 全部が嘘だってわけでも・・・

中村 分かりました。

幹子 あのこと。

中村 ずっと一人だったんですね。

ふたりでいてもお互いひとりしてるだけだった。

幹子 ごめんなさい。

中村 いえ、正直に言ってもらえて良かったです。勘違いしたままよりは。

幹子 でも、本当に、全部が全部嫌だったとかじゃなくて、もうちよつと本とかマニュアルとか離れたところでしたいなあって。

中村 はい……でも、今日は帰ります。

幹子 あ、はい。

中村 あの……正直、僕には無理かもしれないです。

幹子さんのような勉強熱心で経験豊富な方を満足させるには。

幹子 ……

中村 ごめんなさい。では……

中村、再度、帰ろうとする。

幹子 私、今日が初めてなんです！

中村 え？

幹子 男性とするの。

中村 え！

幹子 嘘ついてごめんなさい。三十七にもなって、気持ち悪いとか重荷だとか思われなくなかった。

中村 いや、それは……じゃあ、ますます、僕では……

幹子 いえ、あの、本当に好きな人とできて良かったって思ってます。

中村 あ、ありがとうございます。

幹子 でも、正直に言っつて。気持ち悪いでしょう？

中村 いや……そんな……あの……辛くなかったですか？

幹子 え？ 何が？

中村 いや、最初は痛いとか、そういう肉体的なことが……

幹子 それは、おもちやで慣れてるので。

中村 おもちや！

幹子 あ、私変態なんですよ、私。なんか思春期の頃から異様に性のことに興味があつて、色々、それこそ中村さんが卒倒しそうな雑誌とかAVとか見て、すごい研究して……

中村 は、はあ……

幹子 色々隠してごめんなさい。

中村 はあ。

幹子 軽蔑しますよね。

中村 いや、ちょっと色々情報が追い付かなくて・・・

幹子 あ、そうですよね。

中村 でも、あのレポートは良かった。

幹子 あれも嘘です。

中村 え？

幹子 どうやったら講座生代表のレポートとして選んでもらえるのか、考えながら書きました。

中村 ああ・・・じゃあ、本当は・・・

幹子 最初はその・・・頑張ってみたんですけど・・・結局、すごい巨乳の女の人がたくさん男性に襲われてる映像でなんとか完結しました。

中村 そう・・・だったんですか。

幹子 すみません。

中村 いやいや、僕も巨乳ものは別に嫌いじゃないし。

幹子 え？ だって、中村さん、そういうの見てトラウマになったんじゃない。

中村 本当にひどいのは嫌だなあ、て思いますけど・・・それほどでもないのなら、まあ。

幹子 でも、こうもつと男性と女性の美しい交わり、みたいなそういう理想を・・・

中村 それを目指してるのは幹子さんなんじゃないですか？

幹子 勿論、目指したいし憧れてます。でも、どうしようもなく変態な部分がつつと抜けきれなくて。

中村 はあ。

幹子 私、12歳の私を説得してるんです。そのころの私が変われば、私は変態じゃなくなる、美しいセックスができるようになるって。

中村 はあ。

幹子 でも、彼女はずっと変態のまま、誰かにそれがばれるんじゃないか、嫌われるんじゃないかっていつも怯えてる。

中村 僕は・・・それでも好きです。

幹子 え？

中村 あ、いや、そういう部分でどうこう思ったわけじゃなくて、真面目で飾らないところとか、一生懸命働く姿とか・・・そういうところに魅かれたわけであって・・・それに、別に性に興味があるのは生物として当たり前だし、それを変態とは思いません。

幹子 で、でも、私、嘘ばかりだし。

中村 僕だって嫌われたくないから。だから、本に書いてある通りにすれば、正しくできると思っただし。

幹子 ああ・・・じゃあ、本当はどんなことがしたいんですか？

中村 え？

幹子 中村さんの心からの気持ち。正直なところ。もう教わったこととか色々全部外して考えたら。

中村 僕の正直な気持ち・・・

しばらく間。

中村 何もしたくないかなあ。

幹子 え？

中村 何もせずにされるがままになってたいなあ。

幹子 たくさんの女の人に囲まれて？

中村 いやいや、そんなたくさんじゃなくていいです。

幹子 そういうのって、どうやって募集すればいいんでしょうか。

中村 いやいや、何も本当にしたいわけじゃ。あくまでもファンタジーです。

幹子 ああ。

中村 誰にだってあるでしょう？

幹子 はあ。

中村 幹子さんは？

幹子 私は・・・私は、野外がいいです。

中村 野外！ それは、捕まるんじゃないや・・・いや、適当な場所を探しましょう。

幹子 いえいえ、これもファンタジーですから。

中村 でも、色々やってみませんか？ これから。

幹子 そうですね。

中村 ちゃんと話せて良かった。

幹子 すみません。すっかりお引き留めしてしまって。まだ、電車ありますか？

中村 走れば最終には間に合うと思います。

幹子 あ・・・

中村 え？

幹子 今度は泊まっていってください。

中村 勿論です。では・・・

中村、退場。

12歳の幹子、登場。

幹子 ごめんね。

12歳の幹子 何が？

幹子 みんなの中に入らなきゃとか、一人が怖いとか、12歳のあなたが怖いのは当たり前前なのに。

12歳の幹子 うん。

幹子 私、あなたを責めてばかりだった。

12歳の幹子 うん。

幹子 私が大丈夫だよって言ってあげれば良かった。

12歳の幹子 うん。

幹子 どんなあなたでも好きだって言ってくれる人が現れるから。

12歳の幹子 うん。

幹子 私も・・・私はあるのが好きだから。

12歳の幹子 うん。

幹子 だから、もう大丈夫。

12歳の幹子 うん。あのね・・・

幹子 え？

12歳の幹子 みんな、怖いんだなって思った。嫌われるのとか。

幹子 うん。

12歳の幹子 中村さんも怖いんだね。

幹子 うん。

12歳の幹子 あなたも怖い？

幹子 うん。怖い。

12歳の幹子 そっかー。

幹子 でもいいんだよ。別に。怖いままで。

12歳の幹子 そうかな。

幹子 そうだよ。

12歳の幹子 そうか。

幹子 うん。

12歳の幹子 じゃあ、分かった。怖いけど・・・怖いけど、怖いまま、変態のまま堂々と生きていく。

だから、あなたも堂々と生きて、三十七歳。

幹子 うん。

幹子と12歳の幹子、見つめ合う。

幹子 って言いたいんだけどさ。

12歳の幹子 何。

幹子 ちょっと聞いてもらっていい？

12歳の幹子 何！

幹子 野外って、どこがいいと思う？

12歳の幹子 え〜〜。

語り続ける二人。

幕。